

うさぎとかめの通信

上越市立高田幼稚園

(園長室だより) 108周年
令和6年11月21日 第199

HPのQRコード→



「思い→体験→表現」は、幼児、児童、生徒に一貫する遊び学びの基本！

たくさん交流ができました！

今年度は、大養保育園や南新町保育園などの公立保育園のお友達が高田幼稚園に来て一緒に交流をすることが増えました。そして、11月は、南新町保育園のお友達と大手町小学校の1年生との交流会を行いました。

☆南新町保育園のお友達との交流☆

11月14日(木)に南新町保育園の4・5歳児のお友達が遊びに来てくれました。

南新町保育園のお友達が、高田幼稚園に来てくれるのは、今回で3回目になります。1回目も2回目も、午前中の短い時間のためか、それぞれが園庭や遊戯室で好きな道具を出して遊ぶという感じで、それぞれの子供が一緒になって遊ぶ様子が見られませんでした。

3回目の今回の様子を見ていると、最初は別々の場所で遊んでいた子供たちが、時間が経つとともに、同じ場所で遊ぶ様子が見られてきました。一緒にリレーをしたり、ドングリなどの自然物を使って料理したり、砂場でダムや落とし穴を作っていたりなどなど、あちらこちらで一緒に遊んでいる様子が見られました。そして、一緒にいれば、子供たちは自然と言葉のやりとりが見られるようになってきます。自分から声を掛け、教えてあげたり、聞いたりしていました。



高田幼稚園の子
と南新町保育園
の子が一緒！



☆大手町小学校1年生との交流☆

11月6日に大手町小学校の1年生が、高田幼稚園に「からふるまつり」の招待状を持ってきてくれました。「からふるまつり」の案内状には、いろいろなイベントが書かれていました。幼稚園の子供たちは、「『きっさ ミニブタ』って、何するのかなあ?」「『やさい流し』って、どうするのかあ?」と案内状のポスターを見ながら、わく

わくしている様子でした。

「からふるまつり」当日



7日の『からふるまつり』当日では、ミニブタさんのからふる広場が、とっても楽しい場所に変身していました。そして、お散歩に来ていたマリア愛児園の4歳児のお友達も一緒に参加することになりました。そこでは、ミニブタさんと一緒に遊べるジャングルジム迷路や、流しそうめんをする感じでミニブタさん用の野菜を流し洗うところなどができていました。



子供たちは、1年生から「こうするんだよ」と教えてもらえたり、「どうやるの?」と自分から聞いたりして、やってみたい場所に行って楽しむことができました。そして、帰りには、「今度は、高田幼稚園に来てね」と1年生に呼び掛けている子や「ミニブタさんが、柿を食べていたから、幼稚園の柿を1年生に届けたいな」と話している5歳児の子もいました。交流会を通して1年生に親しみをもったり憧れを抱いたりしたようです。

☆交流で育つ社会性の基礎☆

交流会では、家庭でもなく幼稚園の中でもない、いわゆる外の人との関わりが生まれます。「人と関わりたい」という気持ちが社会性の基礎となるといわれます。この気持ちは、他の人に言われ頭で分かっているだけでは、生まれてきません。自らの体験によってのみ、獲得されるものだと言われます。

今回の南新町保育園の子供たちや大手町小学校の1年生との交流会で、他の子供と一緒に遊んだり活動したりすることを通して、子供たちは、交流を楽しんでいました。そして、「他の子と関わることって楽しい」とか、「他の子と関わるのって、嫌ではないな」「今度は何かをしてあげたいな」と思ったようです。

このような「人と関わるのが好き」という気持ちは、その後、集団での活動に進んで参加することにつながります。また、成長するにつれて、進んで協力できた、自分から働きかけができた、誰かの役に立つことができたという姿につながります。高田幼稚園では、これからも、他の園や小学校、そして地域との交流を大切にして、社会性の基礎を育んでいきます。